

(別紙)

平成 26 年度 成果の説明書

富澤一弘	経済学部 経済学科
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 科学研究費補助金(基盤研究 C 平成 23 - 27 年度「近代日仏間生糸・絹織物貿易史の研究ーリヨン絹織物業組合の原史料を中心にー」)によるフランス国立図書館・フランソワ・ミッテラン館(パリ市)の調査を行っている。</p> <p>報告者は、平成 23 年 9 月 - 10 月、16 泊 18 日(公費)、平成 24 年 6 月 - 7 月、17 泊 19 日(公費)、平成 26 年 2 月 - 3 月、8 泊 10 日(私費)、平成 27 年 2 月 - 3 月、8 泊 10 日(私費)の現地調査をそれぞれ行って、19 - 20 世紀前半の日仏生糸・絹織物貿易に関する仏文史料・原文書等を、合計 4 万枚以上、複写して帰国している。</p> <p>これらの史料は、わが国にはコレクションとしては、全く存在しておらず一国会図書館にも、他の有名な史料所蔵機関にもみられない一フランス国内の蚕糸業・絹織物業関連の業界紙・誌等であり、フランス側から当該期のシルク貿易史を研究する際の、知られざる最重要史料である。</p> <p>報告者は、今後とも、本研究を最重点の研究課題として継続・深化させていくつもりであり、さらに平成 28 年度の史料集刊行、平成 29 年度の論文集刊行を目指して、孜孜として努めていきたい、と考えている。</p> <p>(2) 国内史料所蔵機関における史料調査</p> <p>(1) の研究・調査の補充調査として、科学研究費補助金、および個人研究費を使用して、首都圏、ならびに東北 - 西日本の広範なエリアにおいて、生糸・絹織物貿易に関する文献蒐集を行ってきた。これらは、明治 - 昭和前期のシルク産業に関する史料が中心であり、他に絹布以外の繊維や、各種の同業者組合に関する文献等も含まれている。平成 27 年度以降も、これら補充調査を、エリアを拡大しつつ、継続していく予定である。</p> <p>(3) 成果の発表：口頭</p> <p>①「明治期上州生糸とフランス」(平成 24 年 11 月 3 日、群馬歴史研究会、群馬県桐生市、旧黒保根交流館)。</p> <p>②「19 世紀絹業者のみたパリ・リヨン」(平成 25 年 1 月 13 日、群馬歴史研究会、群馬県桐生市、旧黒保根交流館)。</p> <p>③「仏文史料にみる万国博覧会出品の日本生糸 - 明治期を中心に - 」(平成 25 年 10 月 6 日、群馬歴史研究会、群馬県桐生市、旧黒保根</p>	

交流館)。

- ④「仏文史料にみる日本産絹布等の評判 - 明治期を中心に -」(平成 26 年 3 月 12 日、群馬歴史研究会、群馬県桐生市、旧黒保根交流館)。
- ⑤「幕末・明治初期のリヨン生糸相場の推移 - 仏文史料を通じて -」(平成 26 年 12 月 6 日、群馬歴史研究会、群馬県桐生市、旧黒保根交流館)。
- ⑥「明治初期のニューヨーク生糸相場の推移について - 仏文史料を通じて -」(平成 27 年 2 月 7 日、群馬歴史研究会、群馬県桐生市、旧黒保根交流館)。

## 2 その他の事項

(1) 日本史学の範疇で有名な「地方史研究協議会」(東京都、日本学術会議登録の学会)は、半世紀以上の長きにわたり、例年、4月に「日本史関係卒業論文発表会」を都内の大学で開催している。

各大学で1名、文字通りエース級の優れた卒業生が集うこの発表会には、過去20年以上、毎年、報告者の門下生が登壇して、卒業論文の要旨を発表している。平成26年4月19日、大正大学で行われた同会も然り、平成27年4月18日、駒澤大学で行われる同会も然りである。

400字詰め原稿用紙に換算して、200枚以上の卒業論文を課し、2年半越して懇切丁寧な指導を行ってきたことの成果が、かかる好結果につながっている、と考えている。